浦安市図書館友の会

NEWSLETTER 第６６号

平成２２年１月１５日　浦安市図書館友の会　会長　舟田園子

明海大学メディアセンター見学記

１０月２４日（土）に友の会会員、浦安市立図書館友の会担当木村さん、コミュニティ誌等で友の会のお知らせを見た市民の方、合わせて総勢１７名で「明海大学浦安キャンパスメディアセンター（図書館）」を見学してきました。

明海大学図書館の永田さんの案内で５階から見学しました。５階は屋上庭園、会議室、個室閲覧室１２室あり、静かな環境です。

４階、３階は開架書庫、オープン閲覧席があり、市民のための席も用意されています。土曜日は大学が休みで学生が少ないので調べもの等に市民のための席も用意されていますので、大いに利用していただきたいとのことです。蔵書は現在約２６万冊です。大学の図書館なので学部（外国語、経済、不動産、ホスピタリティー・ツーリズム）の研究、教育のための文献を中心に所蔵されているので、市立図書館と使い分けをして利用できます。

３階電動書庫には浦安市立図書館団体貸出図書もあります。２階はエントランス、マルチメディア・ライブラリーで市民も利用できます。

その後、自由見学の時間があり、各自興味あるコーナーをまわりました。最後に５階会議室にてメディアセンター長の朝日氏（経済学部教授）も参加されての質疑応答の時間が設けられました。市民参加の方々からも次々質問がありました。市民の登録者数は３９５１名（2002 年～現在まで）、昨年度のゲート通過数は 5700 名余とのことです。

市民が利用するには登録手続きが必要です。必要書類は運転免許証等の現住所および年齢（20 歳以上）が確認できるもの、写真を持参の上、登録者本人が来館しなければなりません。

案内の永田さんは「学生の利用はマルチメディア･ライブラリーでインターネットでの調べものが中心になっていて、3，４階の図書室の利用が少ない」と残念そうでした。　（K）

今月の友の会デーは　１月22日《冬のお楽しみ会》皆さん来てください

詳しくは４ページをご覧ください

図書館を知る講座

書庫棟展示「現代日本を読む」

９月26日視聴覚室で図書館の居倉さんが解説してくださいました。

８，９月に担当司書、分野の方が探し、４つの紹介するものを選んできた。あまり片寄ったものでなく、いろいろな考え方が満遍なくおさえられバランスのとれる様に取り組んだそうです。展示のサブタイトルは「４つのキーワードで読み解く時代の流れ」。

現在の様々な問題解決、これからの社会をどのように構想していくかという課題は、市民一人ひとりが主体的に学び、考え、行動することが必要です。ひとつの課題にすぐ効く「特効薬」的な方法は存在せず、私達一人ひとりにとって身近な問題、切実な課題について多様な情報や知識を得て理解を深めて行くことが求められています。この現代の複雑な問題を読みとく糸口となることを願って「経済不況」「格差・貧困」「少子高齢化」「社会保障」の４つのキーワードから考える本を紹介しているとのことでした。

今回特に市民の一人として、現代の時の流れを素早く取り組んだ書庫棟展示に日頃の感謝の気持ちが湧いてきました。「本殺し」の現場を歩いてきた作家、佐野真一さんが蔵書に優れた中央図書館をひいきにしていることを思い出し、又お楽しみ会の時の館長はじめ館員の方達のお姿まで浮かんできました。有難うございました。今後も展示楽しみにしております。　（Ｉ）

千葉県立図書館見学

11月26日、友の会会員８名と図書館より木村さんが同行し、千葉県立図書館を見学しました。

副館長、職員の挨拶のあと、概要にそって県立図書館の歴史や役割の説明がありました。浦安市立図書館の竹内初代館長、磯野２代目館長は県立図書館出身であり少なからず縁があること、浦安は全国的にも有名でとても恵まれていること等を話されました。

その後児童室、成人開架室、資料室、書庫等、ていねいな説明をして頂きながらゆっくり見学することができました。児童室は窓からのやわらかな日差しがいっぱいで、児童が楽しく本を読んで過せるようなあたたかい雰囲気がありました。

最後にお見せ頂いた資料の中ですばらしかったのは我が国最初の実測日本地図を作りあげた伊能忠敬の地図でした。ところどころ虫くいや小さなやぶれがありましたが保存状態もよく「東葛飾郡」や「浦安」の字も鮮明に読みとれ感動しました。

小春日和の暖かい天候に恵まれ実りある見学会となりました。　（Ｓ）

「子どもの本の読書会」

第６回読書会

（9月１６日）のテキストはフィリパ・ピアス作、高杉一郎訳『トムは真夜中の庭で』（岩波少年文庫）でした。まず私の目を惹いたのはタイトル。「真夜中の庭」で何があるのだろう？・・・好奇心と期待でページを繰るのが楽しみでした。

トムはやむを得ず叔母夫婦のアパートで夏休みを過ごすことになり意気消沈。叔母夫婦は昔の大きな邸宅の二階の借家人です。叔母、叔父との日々に退屈するトムは１３時を打つ不思議な時計に導かれて、錯綜する時間の織り成す「真夜中の庭」で現実と幻想が入り混じったファンタジックな体験をします。私もトムと等身大の女の子に戻って一緒に「真夜中の庭」での新たな発見をドキドキ、ワクワク、ハラハラしながら楽しみました。幼い日々に心を遊ばせ懐かしい人々に思いを馳せながら・・・！　（Ｆ）

第７回読書会

（１１月１８日）は『西遊記』（福音館文庫）、呉承恩作、君島久子訳、瀬川康男画でした。子ども心になじみ深い物語ですがその量感にびっくり。大人心で上・中・下の三巻を夢中で読むうち、童心に強く残っていた孫悟空、猪八戒、沙悟浄の冒険の奥の深さを知り、驚きと感動でした！彼らは西方の仏陀の地へ取経の旅へ出る三蔵法師の供をして数々の困難、妖魔と戦い大願成就するのですが、彼らの運命はすでに決められており「なるべくしてなったのだ。」三蔵法師をはじめ、孫悟空、猪八戒、沙悟浄は選ばれた者で、経典も数々の艱難辛苦を得なければ得られないことも、「すでに決められていたこと、」であったのです。

瀬川康男の画は物語のイメージぴったり合って、奇想天外な取経の旅を力強く生き生きと描写し楽しませてくれました。　（Ｆ）

図書館を知る講座

書庫棟展示「松本清張」を聴く会

お知らせ状が届いたこともあり、書庫棟展示を覗いてみると「松本清張について」だった。興味を覚えたので友の会デー（１２月２６日）に出てみました。驚きは満席（第一集会室）だったこと。森田館長はお人柄そのまま、「とりたてて申し上げることはなく月並みだが、一人で館長としてできることには限りもあり、皆さん（友の会）のサポートあればこその図書館運営である」と繰り返し述べられた。謙遜しながら、友の会を立ててくださった。

図書館の宮原係長の「書庫棟展示解説」に移り「松本清張　探求と推理」（蔵書構成語学文学グループ作成資料）をテキストに説明をうけた。清張の口癖「やりたいことが無数にあるのに残された時間がない」の書き出しで始まるこのテキストは非常に面白い。特に注目は作品名リスト。その題名を見て思い出す数は映画を含めてもタカが知れているのだが、読んだとき（観たとき）自分は何処で何をしていたのか、何を考えていたのか、時代はどうだった？など想起される。推理派、社会派、歴史派などの側面、それに比較しても仕方ないが題名のつけ方が大江健三郎と違うなあと学生だった頃話し合ったことがある。資料は会員の皆さんにも見て頂きたいほどの労作。いやこれは自分史索引とも思えるのだ。

（Ｓ）

夏のお楽しみ会

８月２８日（金）視聴覚室で沢山の図書館司書の方々と友の会メンバーの交流会が開催されました。司書の方々のお子様も沢山来てくださって美味しいお料理とハーモニカの演奏、恒例のバザーもあり、楽しい晩夏の夜でした。　　（O）

これからの友の会

１月２０日（水）　１０：００～１２：００　　第一集会室

子どもの本の読書会

テキスト『長くつ下のピッピ』　アストリッド・リンドグレーン作
大塚勇三訳、岩波少年文庫

１月２２日（金）　１８：００～２０：００　　視聴覚室

冬のお楽しみ会

準備は 17:00～

会費　大人１０００円　子ども５００円

軽く会食しながら、バザーや朗読やストリーテリングなどお楽しみ！

＊ バザーあります（当日持参又は友の会の倉庫にご寄付お願いします。）

２月２３日（火）　１３：３０～１５：３０　　視聴覚室

映画鑑賞会　「ベルリン・天使の歌」

ブログができました

http://blog.goo.ne.jp/tosho_2007　お気に入りに登録して、沢山書き込みしてください。

問い合わせ先：浦安市図書館友の会　舟田園子　　047-352-2486
http://blog.goo.ne.jp/tosho_2007　　〈編集担当：奥　祥子〉